

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名

愛媛県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大洲市立大洲小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	0	12	21
児童数	51	53	68	41	59	59	0	331	

研究の概要

1. 研究主題

体験や思いを生き生きと伝え合う児童の育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1年生～6年生・国語,生活科,総合的な学習の時間
学校として,当該教科を中心とした研究を推進している。
- ・ 5年生,6年生・算数
児童の理解の状況に差が出やすい教科,学年である。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「体験や思いを生き生きと伝え合う児童の育成」</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 充実した体験活動をとおして,一人ひとりの思いを大切にしながら多様な学習活動を展開すれば,豊かな情操が育ち,生き生きと自己表現する児童が育つであろう。 ・ 表現に関する基礎的・基本的事項を身に付け,場に応じた表現の仕方を体得させれば,自分の思いや考えを豊かに表現する児童が育つであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <p>発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導のための教材開発</p> <p>ア 月末テスト</p> <p>イ 言語環境の整備</p> <p>ウ 補充学習</p> <p>個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</p> <p>ア 少人数指導の充実</p> <p>イ おはようタイム</p> <p>ウ 1分間スピーチ</p> <p>児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善</p> <p>ア 自己評価カードの活用</p> <p>イ 評価規準の作成・活用・見直し</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 「体験や思いを生き生きと伝え合う児童の育成」</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 充実した体験活動をとおして,一人ひとりの思いを大切にしながら多様な学習活動を展開すれば,豊かな情操が育ち,生き生きと自己表現する児童が育つであろう。 ・ 表現に関する基礎的・基本的事項を身に付け,場に応じた表現の仕方を体得させれば,自分の思いや考えを豊かに表現する児童が育つであろう。
--------	---

う。

研究の内容・方法

発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発

ア 月末テスト

イ 言語環境の整備

ウ 補充学習

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

ア 少人数指導の充実（習熟の程度に応じた学習の展開）

イ おはようタイム

ウ 1分間スピーチ

エ 音読

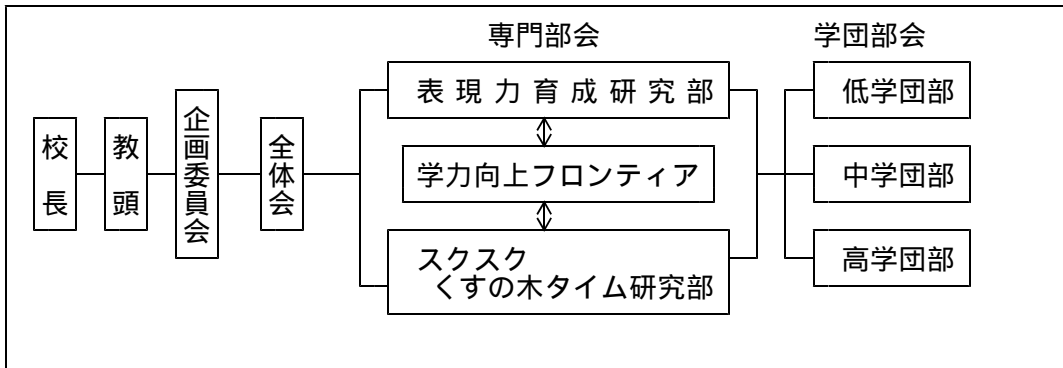
児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善

ア 自己評価カードの活用

イ 評価規準の作成・活用・見直し

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発

ア 月末テスト

毎月月末には、漢字及び計算について学習の定着をみるための月末テストを実施している。十分定着していないと判断される児童に対しては、放課後などの時間を利用して補充的な学習を行った。

イ 言語環境の整備

「声のものさし」、「聞き方名人・話し方名人」を掲示することにより、児童の話し方、聞き方に対する意識付けを行っている。声の大きさを意識するようになると同時に、話し手を意識した聞き方をしようと変容しつつある。

ウ 補充学習

高学年の算数科において実施。少人数指導教員を中心として、30分間行った。理解が十分でなかったところが分かるようになり、自信が付き始めた児童が見られるようになった。

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

ア 少人数指導の充実

国語科(4年1クラス, 5年全クラス)及び算数科(5, 6年全クラス)において少人数指導を実施した。実施においては、担当教師間で基本的な学習過程や指導方法についての打ち合わせを行うようにしてきた。学級編成については、各教科ともに等質に2分して学習を進めているが、算数科における「数と計算」領域の一部の単元においては、習熟の程度に応じた指導を取り入れて実施した。コース選択の際には、レディネステストの結果を参考にし、本人と保護者の希望を聞き決定した。「分かりやすい」「発言が増えた」などの声が聞かれるようになった。

- イ おはようタイム
毎朝の10分間を「おはようタイム」とし、読書の時間に充てている。読書習慣の形成、読書力の育成を目指して、落ち着いた雰囲気の中で読書を行うことができた。また、児童の意欲的な読書活動を保障するため、学級文庫の整備・充実に努めることで、読書に対する姿勢に変容が見られた。
- ウ 1分間スピーチ
児童の表現の場の一つとして、1分間スピーチを行った。各学年において作成している年間指導計画をもとにして、スピーチメモを利用しながら自分の思いを表現すると同時に、相手の思いを聴く場として行った。発表前に練習を行い、覚えて発表する児童や、表情、身振り手振りを加えるなどの成果が見られた。
児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善
- ア 自己評価カードの活用
自己評価カードを作成し、単元末または単元の中で自己評価を実施し、累積してきた。児童自身が単元を振り返ることで、次単元への意欲化を図ることができるようになった。
- イ 評価規準の作成・活用・見直し
評価規準表をもとに評価を行った。少人数指導教員と担任が単元ごとに評価規準をもとにした評価表を作成し、単元の終了ごとに集約し累積してきた。また、必要に応じて見直しも行った。

2. 今後の課題

習熟の程度に応じた学習を、少人数指導（算数科）を取り入れている学級学年を中心に行ってきた。今後、学級の枠にとどまるのではなく、学年を解体（2学級3コース）したり、他の学級学年に広げたりするなどして、よりきめ細かな指導を行っていく必要があると思われる。また、国語科における習熟の程度に応じた学習について研究を深め、実践につなげたい。

基礎基本的な学習内容の確実な定着を図り、児童の主体的な活動を促すためには、教材教具の開発が不可欠なものと思われる。今後、各学年の発達段階に合わせた児童の実態に即した教材教具の開発を進めていく必要がある。

評価においては、教師による評価と児童による自己評価を進めているが、一人一人の児童の学習状況把握はまだ十分であるとは言えない。今後も、児童の学びの姿を見取るために、より一層の評価の工夫が必要だと考える。

学力等把握のための学校としての取組

月末テスト
毎月末に、全学年1ヶ月間に学習した漢字、計算についてのテストを実施
NRTテストの実施
2年生から6年生まで、5月に実施
CRTテストの実施
5年生のみ4教科、2月に実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

八幡浜管内地区協議会において取組の概要の説明、情報交換などを行った。

平成16年度 第2回 八幡浜管内地区協議会において授業公開、取組の説明を行う予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無